

岡山市を中心とする鳥瞰圖



岡山市

岡山市を中心とする鳥瞰図

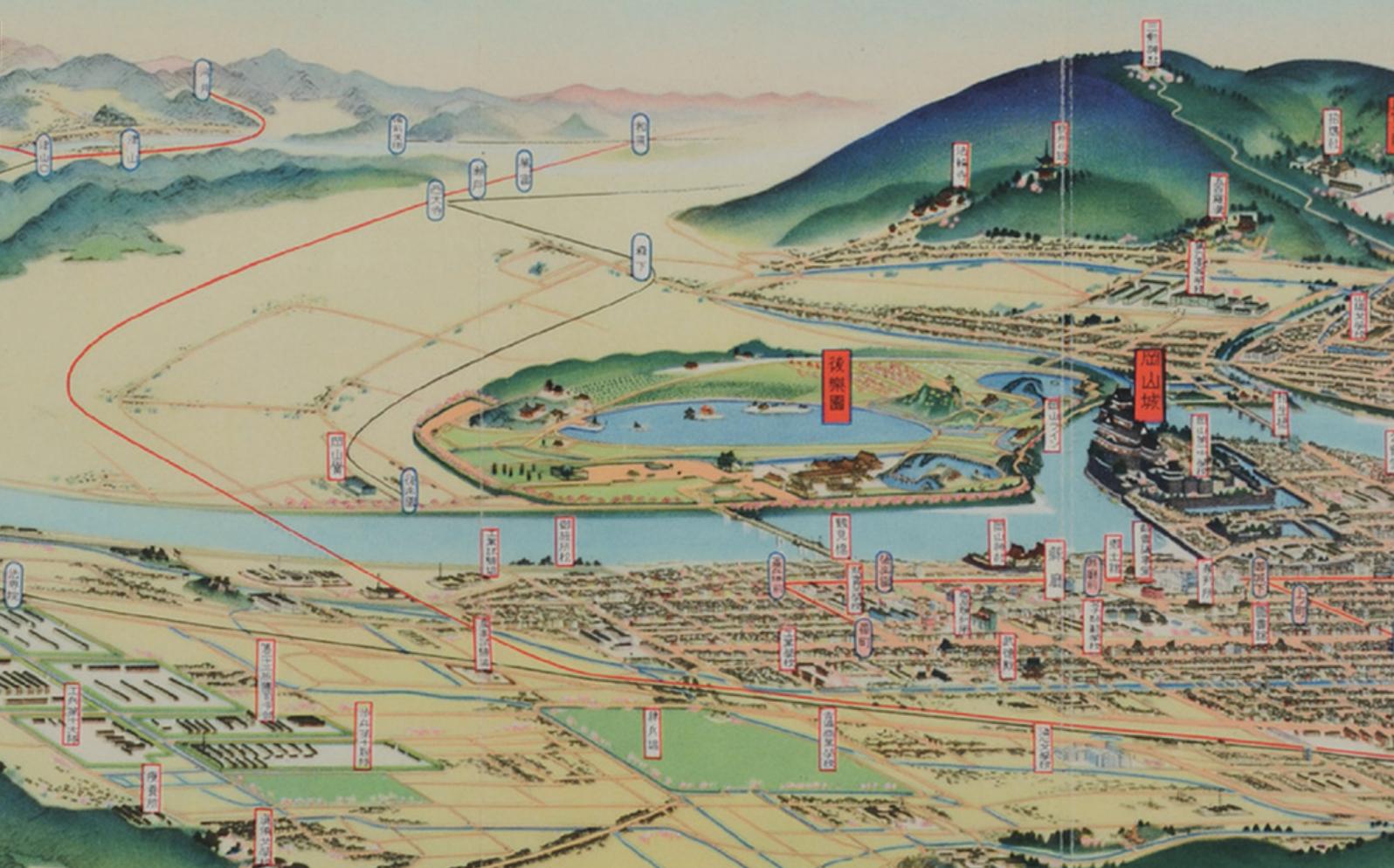
文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

岡山市は岡山平野の中心に位置する交通の要であり、旭川が形成した沖積層に市街地が広がっている。近世には岡山城（姫路の白鷺城に対して鳥城とも）の城下町として繁栄した。中洲の後楽園は水戸の偕楽園、金沢の兼六園と並ぶ名庭園の一つで、城の前面の防御の役割も担っていたという。そうした歴史的背景を有しながら、岡山市は西日本の中核都市として発展を続けている。

岡山市内の重要な公共交通を担う岡山電気軌道は明治四十三年の創立で、古くから市民の足として活躍「市内電車」の愛称で親しまれている。岡山駅前―城下ルートは、明治四十五年五月五日開業の東山本線が御城下（移設し現・城下）で城下筋と直交し、中洲の中島を経て、大正十二年に延伸した東山に通じる三kmの路線となっている。また、清輝橋線は、途中の柳川から旧山陽道筋の蓮昌寺（現・田町）を経て大雲寺前ま

藤本一美
 首都大学東京・専修大学非常勤講師。日本国際地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
 近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、
 最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『岡山市 [岡山市を中心とする鳥瞰図]』

(昭和7 (1932) 年)
 岡山市産業課 発行
 犬山日本ライン 蘇江の観光社本社
 + 高松市の観光社関西支社 印刷

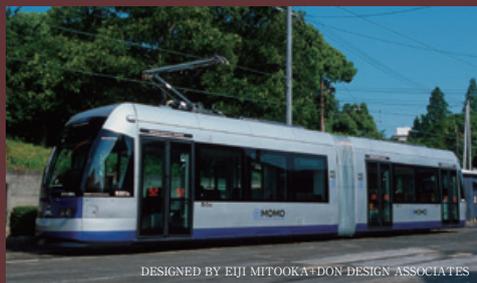
岡山電気軌道株式会社 路線図



岡山電気軌道株式会社

Okayama Electric Tramway Co., Ltd.

創立：明治43年5月21日
 本社：岡山市北区岡南町1丁目14-41



DESIGNED BY EIJI MITOOKA+DON DESIGN ASSOCIATES

超低床車両「MOMO」が走る。 県都・岡山の乗って楽しい路面電車。

平成22年に創立100周年を迎えた岡山電気軌道。戦後の岡山市の復興を支え、岡山の象徴として走り続ける路面電車は、今も地域になくてはならない公共交通機関として広く市民に愛されている。市中心部から東と南に走り抜ける東山本線と清輝橋線の2つの路線は、いずれもJR岡山駅前から運行。営業キロ4.7kmの路線だが、岡山城下の観光ポイントが沿線に点在しており、多くの観光客に「路面電車の旅」が楽しまれている。超低床車両「MOMO」や改装車両の「KURO」、ラッピング車両の「たま電車」など人気車両も多い。



での1km強の路線で、昭和三年に開業。昭和二十一年に、清輝橋まで延伸している。なお、戦災に遭った旧県庁舎前を経て終点・番町に至る1km弱の番町線は、創業時からの歴史があったが、惜しくも昭和四十三年に廃止となっていました。

初三郎の大胆な構図を見てみると、西側上空から眼下に岡山市街地、なかでも左右に伸びる旭川の両岸に岡山城郭と堀割、後楽園を、川向こうに東山、操山の丘陵帯を配置。左端には旭川上流域の美作津山方面、右先端部に大阪・名古屋・富士山・東京方面、中景の多島海瀬戸内海の奥に、遠景の四国屋島や金毘羅宮、九州、釜山方面まで描出してしまいう不思議な誇張表現の巧みに魅かれる。最後に初三郎の「絵に添へて一筆」から拾ってみよう。大正十二年の『岡山後楽園名所図絵』、昭和五年の『南備名所御案内』に次いで、今回の観光博覧会記念岡山全市鳥瞰図で三度の喜びを発して「幸ひに本図を以て独り今日の交通知識に役立つのみを目的とせず、遙なる後世のためにいさゝか昭和の岡山市を伝えて、その印蹟を物語り得ば、筆者末代までの幸福である」と。先見の明のある鳥瞰図歴史遺産の言葉と受け止めたい。